

はあとめっせーじ



第55号

発行／山梨県看護協会中北地区支部
発行責任者／百瀬 千尋
印刷／有限会社 クリップ



支部長あいさつ

はあとめっせーじ発刊に寄せて

独立行政法人 地域医療機能推進機構 山梨病院 百瀬 千尋

春寒の候、支部会員の皆様におかれましては、ますますご活躍のこととお慶び申し上げます。

令和6年度、中北地区支部の支部長を拝命しました百瀬千尋でございます。4月に他県より着任し、小池前支部長から引継ぎました。役員、委員、会員の皆様のご支援を頂きながら地区支部活動に貢献できるよう努めております。

今年度は、「社会人基礎力」・「意思決定支援」に関する研修会を企画し実施しました。あらゆる場所の看護職が関心のある分野であり、具体的でかつ実践的な内容を学ぶことができました。また、一日まちの保健室は、甲府市、甲斐市、昭和町で実施し、地域の皆さまに求められる活動になるよう取り組んでおります。コロナ以前のような支部活動に戻り、改めて地域における看護職同士がつながり、連携を深める重要性を感じております。

今後も地域活動では、地域住民の健康維持・促進を図る活動や看護の質の向上やニーズに合わせた研修を企画し、役員、委員一同一丸となり支部活動を行っていく所存です。会員の皆様のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

Contents

- 支部長あいさつ 1
- 一日まちの保健室 2
- 看護功労者知事表彰受賞者紹介 2
- 看護師のための社会人基礎力研修会に参加して 3
- 患者・家族の意向を尊重した意思決定を支える看護師の役割 3
- 山梨県看護協会に入会しませんか 3
- 看護管理者代表会議・ペンリレー・編集後記 4

一日まちの保健室

JCHO山梨病院 百瀬 千尋

令和6年度の「一日まちの保健室」は多くの地域住民の方に利用して頂くことを目指し「甲府市」「甲斐市」「昭和町」で実施しました。その一つをご紹介します。

甲府市では、令和6年10月26日に小瀬スポーツ公園で開催された『甲府大好きまつり』というイベントで実施しました。このイベントは、市制施行100周年を記念して、平成元年に始められたお祭りで、秋空のもと53,500人と多くの方が来場されました。

役員等12名で参加し、来場者の皆さまに声をかけ、血圧測定、健康相談、リーフレット配布を通し、地域住民の健康づくり、看護の普及活動を行いました。336名の方が保健室を訪れ、136名の方がアンケートの協力もして下さいました。参加して下さいました住民の皆さまには、測定した血圧値と高血圧予防のポイントを書いた用紙、健康づくりやACP（人生会議）普及のリーフレットを“かんごちゃんクリアファイル”に入れてお渡ししました。参加者の方からは、「自分の血圧を知る機会となった」「気軽に相談できるのは助かる」等のお声を頂きました。地域住民の方との対話を通し、病気でない状態を維持し、健康な生活を送るためのセルフケアに関心を持っていただける活動の一つであると感じました。



受賞おめでとうございます。

中北地区支部から看護功労者7名、県民の看護師さん
3名の方々が受賞されました。

受賞者を代表し渡辺亜矢子さんからのメッセージをご紹介します。



「看護功労者知事表彰」の受賞を受けて

甲府市役所 渡辺 亜矢子

令和6年度 看護功労者知事表彰

浅川 美智子様	山角病院
伊藤 雅美様	山梨大学医学部附属病院
井上 貴美様	甲府城南病院
大門 恵美様	山梨大学医学部附属病院
中山 小百合様	甲府脳神経外科病院
村松 裕子様	山梨県民主医療機関連合会
渡辺 亜矢子様	甲府市役所

第29回 県民の看護師さん

齋藤 今日子様	甲府城南病院
菅原 眞澄様	貢川訪問看護ステーション
中村 陽子様	山梨大学医学部附属病院

(五十音順)



令和6年5月17日第46回山梨県看護大会が開催され、「看護功労者知事表彰」20名、「県民の看護師さん」5名の皆様とともに賞を賜りました。

これまで歩んできたことを振り返り、まず、思うのは、駆け出しの頃、市民の方の温かい言葉に支えられたことであり、今でも支えとなっていることです。その後も、多くの方との出会いにより看護職としての自分を育てていただきました。

また、対人支援業務において、「保健師としてどう考えるのか」を大切に先輩や仲間と共に取り組んだこと、個別の課題から地域・集団をみて、予防活動をどう展開していくかの面白さを教えてくれた先輩らにより、地域保健活動に継続し取り組むことができたのではないかと思います。

この受賞は、上司や同僚、様々な方が支えてくださり、そのチームの代表としていただけたものと思います。今後も、感謝の心を忘れずに、地域住民の健康を守り推進する看護職として、また一歩踏み出していきたいと思っています。

Congratulations

Report

令和6年9月3日、山梨県看護協会看護教育研修センターにおいて「看護師としての社会人基礎力を学ぶ」をテーマに研修が行われ、参加された鈴木奈津江さんから感想をいただきました。

令和6年9月17日、11月26日、山梨県看護協会看護教育研修センターにおいて「意思決定支援における看護の役割と看護連携」として研修とグループワークが行われ、参加された石合紋子さんから感想をいただきました。

「看護職のための社会人基礎力 指導者編」研修会に参加して

独立行政法人地域医療機能推進機構 山梨病院 鈴木 奈津江

コロナ禍以降、久しぶりの対面での研修受講でした。若者の問題解決能力やコミュニケーション力など、社会人としての基本的な能力の低下により、早期離職や職業意識の希薄化などにつながっていると言われていいます。私も新人看護師に関わる機会が多く、新人が学生のような受け身な姿勢に対し「もう少し自分から積極的に学ぶ姿勢をもってもらいたい」と考えていましたが、この研修を受講して、私自身の社会人基礎力の足りなさもあり、環境を整えることが不十分であったことなど、新人への関わりに影響していたことを、振り返る事が出来ました。

「社会人基礎力の3つの能力と12の能力要素」を意識し自分のみならず新人に関わり、共に社会人基礎力を高めていきたいと思いました。また、社会人基礎力を評価することで、能力の可視化により、自己での気づきを促すことや、指導・育成の視点の明確化につながることも学ぶことが出来たので、日々の指導に活かしていきたいと思えます。



「患者・家族の意向を尊重した意思決定を支える看護師の役割」の研修会に参加して

公益社団法人山梨県看護協会 ゆうき訪問看護ステーション 石合 紋子

訪問看護師として働き始めて8年が経とうとしています。忙しい日々の中でも、その人の意思を尊重して関わってきたつもりですが、今回の研修で利用者さんの「その人らしく生きること」について、また自分の人生についても改めて考える機会となりました。研修の中では、DVDを鑑賞し、医療者という立場を離れて、1人の人間として当事者の気持ちになって考え、もしものときの意思決定の難しさについて、グループワークを行いました。グループには、訪問看護師は私1人でしたが、病院の連携室や診療所の看護師がおり、それぞれの立場からどのような支援ができるのか意見交換を行いました。当事者や家族の様々な思いを汲み取ることで、看護師としてできることを話し合う中で、私たちは、医療現場で日々利用者さんの意思決定の場面に遭遇し関わっていることが分かりました。いつでもどこでも意思決定の場面があること、最期までその人らしい生活ができるように支援していく役割の大切さを学び、未来の訪問看護師の私の背中をそっと押してもらった気がします。



Yamanashi
Nursing
Association

看護職のあなたをサポート

会員特典いろいろ!

福利厚生サービスも充実!!

山梨県看護協会に入会しませんか



山梨県看護協会は地域住民により質の高い看護を提供するための看護団体です。県内の保健師・助産師・看護師・准看護師で構成する看護団体です。看護協会は保健師・助産師・看護師・准看護師の資格があればどなたでも入会していただけます。日本看護協会と山梨県看護協会(各都道府県看護協会)への同時入会となります。詳しくは山梨県看護協会ホームページをご覧ください。

<http://www.yna.or.jp>

「看護管理者代表者会議」に参加して

令和6年10月29日、ぴゅあ総合にて看護管理者代表者会議が開催されました。講義とグループワークが行われ、「災害対応」について理解を深めました。参加された薬袋富美子さんから感想をいただきました。

公益社団法人山梨県看護協会員川訪問看護ステーション 薬袋 富美子

近年、地震や豪雨等さまざまな自然災害が発生し、現地の方々が多大な被害を受けている状況を知り、心を痛めるとともに人ごとではないと感じています。一方、介護報酬の改定により、令和6年からBCPの策定が義務付けられています。そのため、当事業所でも災害が発生した時に、業務が継続できるような体制作りや訓練を行っているところです。

今回の研修では、山梨県中北地域県民センター主事 宮川尚大先生から「中北地区で起こりうる災害発生」について、山梨県立中央病院 救急外来副看護師長 高野一城先生から「災害発生に備えた看護マネジメント」の講義、その後グループワークを行いました。

講義の中で、中北地域では大雨や地震などの災害リスクがあり、情報収集と備えが大切である事を再確認できました。また平時から災害が発生したことを想定した訓練を行うとともに、災害マニュアルを実際の災害時に活用できるように見直しをすることが大切だと学びました。グループワークでは、それぞれの施設での災害に備えた取り組みの発表があり、その中で平時のつながりが災害時に役立つことを学びました。今後も顔の見える関係作りを大切にしていきたいです。



「行政保健師として」

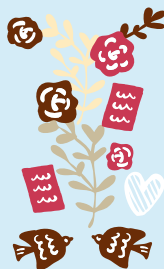
甲斐市役所 水石 弥沙



看護師から保健師へ転職し2年目になりました。看護職として、健康課題の抽出・支援といった点では共通した役割がありますが、前職と大きく違いを感じるの、支援者としての在り方です。

現在は成人保健担当として、予防的介入に取り組む機会が多くあります。対象は個人から集団、地域全体と様々で、またその背景も多岐にわたります。前職では顕在化した課題に対しての支援が主であったように感じますが、ここでは潜在的課題をどのようにして掴み、誰にどう伝えるかという難しさを痛感しています。また課題が顕在化した場合では、地域資源としてどのような機関や機能があるかを知りサービスにつなげる必要があります。

看護師であっても保健師であっても、対象の方に健やかであってほしい、より良くなってほしいという気持ちは変わりません。行政保健師として思いを支援にかえていけるよう、データから課題をつかむ力、対象に合わせたアプローチや目標設定ができる力、地域を知り活用する力をつけられるように技術と知識の獲得、経験を重ねていきたいです。



「緩和ケア認定看護師の活動を通して思うこと」

赤坂台病院 阿部 愛里



私は、緩和ケア認定看護師の資格を持っており、コロナ前は、活動を行っていましたが、コロナ禍になり、活動が出来ない状況になっていました。新型コロナウイルスが「5類」に引き下げられ、認定看護師の活動を再開しています。当院は、病棟が2つあります。活動内容として、月1回の病棟ラウンドや、スタッフより相談があった際に、患者さんやご家族と関わっています。

当院は、看取りの患者さんが多く、様々な人生の最期に立ち会う事があります。患者さんの人生の最期をその人らしく迎えられるように関われるように心がけています。

超高齢化社会を迎えており、様々な身体的問題や、社会的問題を抱えている患者さんもいます。そのような症例をチームで考え、より良い方向へ持っていけるように関わっていく事ができるようにしていきたいと考えています。そして、看護の質の向上に持っていけるようにしていきたいです。

編集後記

震度7を観測した能登半島地震災害から始まった2024年。

2024年の地震発生数は、過去5年間における地震発生数を大きく上回る数となっているようです。

明日、発生するかもしれない大災害に備え、看護職で一致団結したいですね。

中北地区支部の活動は、つながりを強くする一端です。

1人でも多くの皆様方のご参加を、お待ちしております。

おわりに、はあとめっせーじの発刊にあたり、ご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

編集委員

市立甲府病院	井上 友美
山梨県立中央病院	矢崎 妥佳
湯村温泉病院	天野さやか
甲府訪問看護ステーション すずかけ	松田 苗実
赤坂台病院	雨宮麻美子
甲斐市役所	石川 和紀

